

学校再開へ向けての登校日

「緊急事態宣言」が一部解除され、自粛が少しずつ緩和されてきましたが、学校はまだ再開されていません。今週から週2日の登校日が始まりました。クラスを3分割しての活動と体育館での学級活動に限られますが、これから再開へ向けて徐々に登校する日が増えてくると思います。2月29日から臨時休校となってほぼ3ヶ月。初めの頃は「学校に行かなくてもいいから良かった。」と思った人もいるかもしれませんが、今では「いいかげん長すぎる」「早くみんなに会いたい」「勉強大丈夫かな」「部活やりたい」等々と学校へ行きた



(クラス3分割で教科ガイダンス)

くても行けない状況に不安を抱えている皆さんも多いのではないのでしょうか。もう少しの我慢です。しっかりと体調を整えて準備をしていきましょう。

本日は3年生が各クラス3つに分かれて、それぞれに教科ガイダンスを行いました。1年生が体育館にて学級活動を行いました。後半には校内見学もありました。



(体育館で学級活動)



(プールや各特別教室などを見学)



学校が遠い……!!

この期間、こんなに「学校が遠い」と思ったことはありませんでした。皆さんはいかがでしょう？

ところで皆さんは『世界の果ての通学路』という映画を知っていますか？ フランスで最初に公開されたのは2013(平成25)年のことです。その後、世界で公開され、さまざまな映画賞を受賞しました。地球上の異なる4つの地域で、数キロから数10キロの危険な道のりを経て通学し、学校で学ぼうとする子どもたちの姿を追ったドキュメンタリー映画です。

野生動物がいっぱい生息するケニアのサバンナを15キロ、命がけて駆け抜けるジャクソンさん、山羊飼いの仕事を終えてから、360度見渡す限り誰もいないアルゼンチンのパタゴニア平原を、妹と一緒に馬に乗って通学するカルロスさん。女子に教育は不要とする古い慣習が残るモロッコの村から、険しいアトラス山脈を越え、友だち3人と学校の寄宿舎を目指すザヒラさん。幼い弟たちが足の不自由な兄をガタガタの車いすに乗せ、舗装されていない道を踏みしめながら学校に向かうインドのサミュエルさん兄弟。通学路は危険だらけで、大人の足でも過酷な道のりです。それでも子どもたちは学校へまっしぐらに向かうのです。そして別の大陸、違う言語、宗教、生活環境の中で暮らす4人の子どもたちなのに、真っ直ぐな瞳で同じ思いを語ります。「夢をかなえたいから」と。



カメラは密着取材をする中で、それぞれに子どもたちの学習に対する意欲の高さや、そんな子どもたちを支える家族の愛情を映し出していきます。片道2時間や4時間。通学だけで午前時間が終わってしまう。それでも通学するということは学校へ行きたいということ。そして学校で勉強することが楽しくてしょうがないということが、どの子どもの表情からも読み取れるのです。学校には学習の他に、友達や人との人間関係の構築、社会生活への準備、そして夢を実現する方途……等々、さまざまな環境があります。しかし、そんな子どもたちに「気をつけて行ってらっしゃい」という保護者の気持ちは、今なら世界中で共有できるものではないでしょうか。

この映画は、登場する4人の子どもたちを通して、貧困や慣習からの教育問題、身体的な障害等々と様々なことを投げかけています。いずれにしても子どもたちにとって、何時間もかけてでも通学したいと思えるほどの学校があるということはとても幸せなことだと考えます。

コロナ禍の昨今。「命の危険があるかもしれないのに、わざわざ学校に行かなくても……」と思われただけの価値と安全を学校は創出していかねばなりません。



(検温・消毒等、安全対策を万全にしていきます。)